

九路盤から一気に十九路盤に向かう子ども達

子どもの成長に時々魂消る機会は、私ども子育てをした者には共通する経験です。「いつの間にこんな知恵がついたのか」という嬉しい驚きです。先日この驚きの機会がありました。2021年8月17日から20日まで、クリエイトホール生涯学習センターの主催で「夏休みチャレンジ」という子どもを対象とした囲碁講座がありました。講師は倉内満八段です。16名の囲碁を始めて学ぶ子どもが九路盤でマナーや石の取り方、禁じ手、アタリとかオイオトシなどの用語を実際に石を置きながら学んでいきました。ニギリの仕方、コミなども体験しました。講座の最終日は親子でミニ大会を楽しむほどに上達しました。



それから2週間余り経った日曜日の午前中、八王子囲碁センターで開かれている囲碁講座を見学しようと出掛けてみました。10名の高校生以下の子どもが来ています。その中に講座に参加した3人の小学生が受講し始めています。なんとすでに十九路盤を使って練習しているのです。これには本当に「おっ魂消た！」のです。

彼らを指導するのは、倉内氏を筆頭に、長房同好会の鳥山光昭五段、帖地美乃里六段、廣島松治四段といった囲碁案内人の方々です。あらかじめ手順を決めておき、その通りに打つ「決め打ち」の練習です。決め打ちの練習課題は、



初手から24手までを並べることです。次ぎに25手から30手までの課題です。決め打ちは、黒番側と白番側を打ちつぎます。この同じ課題を3回繰り返します。

次ぎに倉内氏は、練習課題の紙を見ないで決め打ちをするようにと指示します。石の並べ方を暗記して決め打ちをする練習です。子ども

の手が止まると囲碁案内人が「この辺りだよ、」とヒントを出します。それでも分からないときは、課題の紙をみて打ち続けます。何度も決め打ちを続け

ると子どもは石を順番に並べることができるようになります。暗記とは子どもにとってのパターン認識ともいえるものです。

九路盤から十三路盤を飛び越えて、一気に十九路盤に向かう倉内氏の方針にも驚きました。考えてみますと、九路盤はレンズで近づけて見るようなもので、盤からレンズを遠ざけるとおのずと十三路盤や十九路盤になります。九路盤で基本を学ぶと十九路盤は、難しくないのかもしれませんが。このあたりの按配は、倉内氏に確認する必要があります。これからの放課後の子ども囲碁教室での指導方法にヒントを得た時でした。 (編集部 2021年9月5日)